

月刊 アカサス ニュース

第40号 1999(平成11年).11

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアサミ」)です。

押し寄せる 大学改革を考える

トップニュース Top News

10月25日、事務局大会議室で、半日をかけて「学校教育法等の改正及び独立行政法人化問題」についての勉強会が行われ、事務職員約100人が参加しての大勉強会となった。講師役の庶務課担当職員からは具体的な内容等が順を追って丁寧に解説され、参加者は学ぶにつれ、とまどいの表情を見せるなど、事の重大さに悲喜こもごもの様子であった。

この勉強会は今後も開催される予定であり、参加した事務職員からは、ホットな情報が得られると期待されている。



他人事ではないテーマに、たくさんの参加者が集まった会場 = 10月25日、事務局大会議室で



資料を見る目も自然と真剣に = 同上

また、同日、総合教育棟ではSCS(スペース・コラボレーション・システム)を利用しての「国立大学の独立行政法人化問題について」と題した講演が行われ、視聴した教職員は熱心に耳を傾けた。

講演では、講師の藤田^{ときやす}田靖教授(東北大学)が“独立行政法人化問題”をめぐる客観的情勢や政治的情勢について述べた後、避け難い「法人化」に向けた我々の採るべき道について、様々な視点から語った。



SCSでも取り上げられたテーマ“独立行政法人化問題” = 同上、総合教育棟SCS室で





巻頭言

大学の危機



学長 補佐
(薬学部教授)

花岡美代次

少子化と独立行政法人化という二つのうねりが、今、大学に大きな変革を迫ってきている。まさに大学の危機である。少子化は当然18才人口の減少に連なり、大学の存亡に係わる。幸い未だ廃学の例を聞かないのは、大学進学率の上昇に負う所が大きい。しかし、大学全入時代の到来により、大学の変容は避けられないこととなる。一方、独立行政法人化も必至の状況である。中味は判然としないところも多いが、各大学がこれにどう対応するかによって、大学間の差は益々大きくなると思われる。本学でも独立行政法人化問題検討委員会が発足し、精力的に検討されている。大学として変えてはならないもの、変えるべきものを峻別しつつ、機敏な対応が望まれる。この二つの大きなうねりに如何に対処するか、本学の命運が懸っている。

先の大学審議会答申で、大学の進むべき道として多様化・個性化の方向が示された。すなわち、教養教育中心の大学、専門職業人を養成する大学、生涯教育中心の大学、研究志向の大学などである。日本海側の基幹大学を自称する本学としては、地域に密着しながら世界へ向けて情報発信のできる、研究志向型の大学院中心の大学を目指すべきであろう。そのためには、自他共に認める基幹大学としての体制と実績作りが必要である。

週刊誌上で、今後危ない大学はどこだと実名入りで報じられている。本学でも危機感をもち生き残りをかけて、この危機を俊敏に乗り越えねばならない。一周遅れのトップランナーは願ひ下げにしたい。危機は裏返せばチャンスでもある。部局の枠を越えた全学的協力が今ほど求められる時はない。

科学研究費補助金公募要領説明会に事務職員約150人が参加

10月5日、本学を会場に東海北陸地区の事務担当者を対象とした「平成12年度科学研究費補助金公募要領説明会」が行われ、80機関から147人が参加した。

同説明会では、文部省と日本学術振興会の担当者4名から制度の概要や審査の状況などについて説明があり、参加者は熱心にメモをとるなどして聞き入っていた。



制度全般について説明する文部省学術国際局研究助成課井上賢一科学研究費特別助成係長
= 10月5日、工学部秀峯会館で



真剣に聞き入る事務担当者
= 同上





岡田前学長に 名誉教授称号記を授与

10月8日，事務局特別会議室で，岡田晃前学長に名誉教授の称号が授与された。

これにより，本学における名誉教授の称号記授与累計数は329となった。



林勇二郎学長から名誉教授の称号記を受け取る岡田前学長
= 10月8日，事務局特別会議室で

輪島塗の第一人者を招いて “技”を学ぶ

10月25日，輪島塗「沈金」の第一人者で日展評議員の^{かどのいわじ}角野岩次氏を講師に招いて，本年度第2回目となる自己啓発講演会が開かれた。

「輪島塗における技術の伝承と発展」をテーマとした今回の講演会では，沈金の実演も行われ，受講者は角野氏を取り囲んで，間近でその作業を見ることができ，様々な質問をしたり，のみを借りて実際に輪島塗の板に溝を掘ったりと，有意義な講演会となった。



輪島塗の起源・年季奉公による師弟関係等について語る角野氏
= 10月25日，事務局大会議室で



沈金の実演を行う角野氏
= 同上



理学部附属臨海実験所で 公開講座が行われる

10月16・17日の両日、理学部附属臨海実験所で、生物実験を通して基礎的なバイオ知識の普及と解析技術の修得を目的とした公開講座「現代の生物学 - バイオの時代に生きる」が実施され、高校教諭等5名が受講した。なお、講師は本学教官のほか、高橋稔彦石川県水産総合センター所長が加わった。



実験中の受講生
= 10月16日、理学部附属臨海実験所で

理学部見学会 「ふれてサイエンス(Feel the Science)」を開催

10月31日、一般を対象とした第7回理学部見学会「ふれてサイエンス(Feel the Science)」が行われた。今年は、学生が「Science」の文字を図案化した「サイエンスくん」がPRに一役買ったのか、入場者も増加して700人近くが見学に訪れ、大変盛況であった。



サイエンスくんのロゴマーク



テレビ局も取材に訪れた
= 10月31日、理学部で

“テクノフェア”で 研究成果を存分にアピール!

産学官が一同に集結して交流を図る「'99北陸技術交流テクノフェア」が、10月15・16日の両日、福井県で開催され、約3万人の見学者でにぎわった。

本学共同研究センターも出展し、大学が今、社会からとりわけ医療福祉や技術移転に関して注目されていることを踏まえ、本学教官の各種研究成果の事業化例を紹介し、企業の関心を集めていた。



にぎわう本学の出展ブース
= 10月15日、福井県産業会館で

「北陸共同研究交流会特別講演会」 技術情報で交流を推進

10月27日から29日までの3日間、各種講演に加えて、パネルディスカッション、共同研究紹介、見学会等の趣向を凝らした“特別講演会”が、工学部で開催され、最新の興味深い技術情報がわかりやすく説明された。この事業は、文部省の「21世紀型産学連携手法の構築に関わるモデル事業」として実施されたもので、参加者との活発な質疑応答からも、様々な交流の目的にかなう講演会となったようだ。



パネルディスカッションの様子
= 10月27日、工学部秀峯会館で





50 地域交流推進シンポジウム第四弾 「交流を通しての街づくり」

10月16日、創立50周年記念・能登地区交流シンポジウムが内浦町福祉センターで催され、参加した地元住民らは、基調講演やパネルディスカッションを通じて“交流を通しての街づくりの在り方”を考えた。

これで創立50周年記念行事である「地域交流推進シンポジウム」のすべてが終了した。



「交流と連携によるまちづくり」と題した基調講演を行う川上光彦教授(工学部)
= 10月16日、内浦町福祉センターで

留学生21名を迎えて 短期留学プログラム第 期が開講

10月8日、昨年10月に開設され、主として英語による教育を1年間行っている「本学短期留学プログラム(KUSEP)」の第Ⅱ期開講式が行われた。

同プログラムでは、日本への理解を深め、国際社会で活躍する人材の育成を期待している。



関係者一同で記念の1枚
= 10月8日、事務局第4会議室で

10月の研修スナップ

石川県地区国立学校教室系技術職員研修

期 日:10月25日・26日

受講者:石川県地区の国立学校等に勤務する教室系技術職員 19名

場 所:本学及び辰口共同研修センター



自らの成果を話す「技術発表」の様子
= 10月25日、辰口共同研修センターで

本学へのお客さま(10月)



フルブライト・メモリアル基金米国教育者招へいプログラム訪問団一行
= 10月18日、教育学部で



国際学術研究公開シンポジウム外国人招待者一行
= 10月20日、学長室で



国立釜慶大学校自然科学大学(韓国)の李東宰学長(右から4人目)ほか
= 10月25日、学長室で

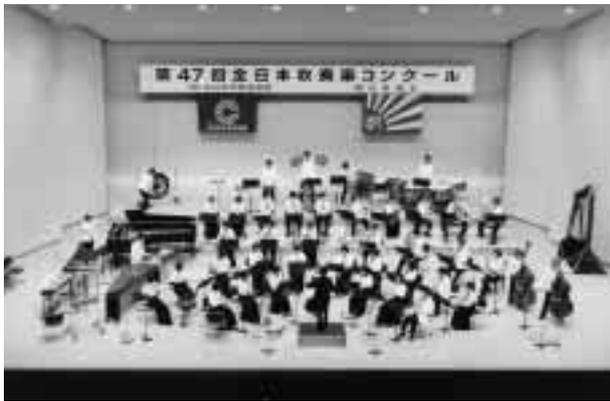


アンソニー・マシエロ市長訪問団一行(米国ニューヨーク州バッファロー市)写真左手
= 10月26日、事務局特別会議室で



本学吹奏楽部 全国大会で銀賞を受賞

10月23日、福島県で開かれた第47回全日本吹奏楽コンクール(全日本吹奏楽連盟, 朝日新聞社主催)大学の部において、北陸代表で出場した本学吹奏楽部が銀賞を受賞した。2年連続全国大会出場となった同部は、部員43名の心を一つに合わせてのびのびと演奏し、美しいアンサンブルで聴衆を魅了した。



熱気あふれる演奏の様子
= 10月23日, 郡山市民文化センター(福島県)で

医学部附属病院新病棟 モデルルームを公開

このほど、平成13年度の完成に向けて工事が進められている医学部附属病院新病棟の病室のモデルルームが公開された。実際に使用する関係者が見学に訪れ、各種装置や家具などを一つひとつ丁寧に見て回った。新しい病室は、全室トイレ完備・バリアフリー設計となっており、今後は、今回の見学者の意見も参考に予定。



モデルルームを見学する同病院の関係者
= 10月27日, 医学部附属病院で



国際交流協定締結大学(その16)

レーゲンスブルク大学 (ドイツ) 〔1999.10.13協定締結〕

1962年に創設されたレーゲンスブルク大学は、カトリック学, 経営管理学, 哲学等の15学部と, 銀行情報科学研究所, 未来学研究所などを持つ総合大学で, 約800人の留学生を含む17,000人の学部・大学院学生と, 教職員約3,300人を擁する。

同校は, 欧州でも国際交流が盛んな大学であり, 毎年200人を超える外国人研究者が同校で研究にいそんでいるほか, 学生交流の面でも, 欧州最大の交流プログラムであるErasmus計画など多くの留学プログラムが学生に提供されている。



同大学の保健管理センター(同大学パンフレットから)





新任部局長等の紹介 このたび、以下の方々が新しい部局長等に就任した。(敬称・略)

<p>学長補佐 (研究・環境担当)</p> <p>はなおか みよじ 花岡 美代次</p> <p>生年月日; 昭12.2.5 任期; 11.10.15 ~ 13.10.14 所属; 薬学部・ 医薬品化学講座</p>	<p>学長補佐 (教育担当)</p> <p>はた やすじ 畑 安次</p> <p>生年月日; 昭昭20.4.3 任期; 11.10.15 ~ 13.10.14 所属; 法学部・ 公法講座</p>
<p>学長補佐 (学術情報担当)</p> <p>わだ けいしろう 和田 敬四郎</p> <p>生年月日; 昭14.1.22 任期; 11.10.15 ~ 13.10.14 所属; 理学部・ 生命機構講座</p>	<p>薬学部長</p> <p>つじ あきら 辻 彰</p> <p>生年月日; 昭17.8.6 任期; 11.11.1 ~ 13.10.31 所属; 薬効動態学講座</p>

訃報

10月、現職お一人がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



や えざわとしお
八重澤敏男助教授
(医学部)

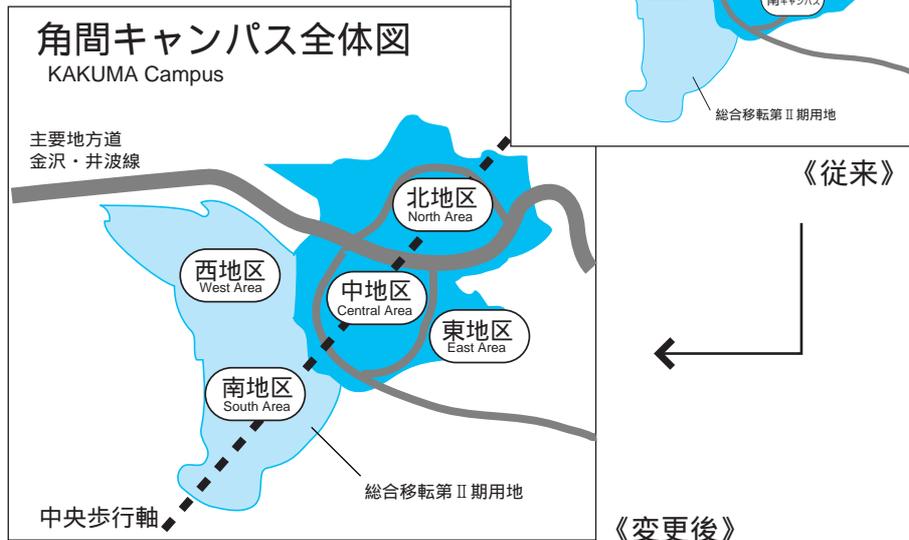
10月22日逝去
享年50歳

顔写真横の記載は、上から氏名・生年月日・任期・所属の順

角間キャンパス内の呼称を変更

従来、角間キャンパス内の呼称は、主要地方道(金沢・井波線)を基準とする方角により、北キャンパス・南キャンパス・西キャンパスとされていた。

しかし、総合移転第Ⅱ期計画において、中央歩行軸を基準とした計画が策定されたことに伴い、従来の呼称に矛盾が生じたため、今後は右図のとおりに変更することになった。(9月27日、第170回総合移転実施特別委員会で承認)



編集後記

朝晩、随分と涼しくなってきたので、自宅に暖房用具のこたつをセットした。ホンワカとしてよいものです。

ついこの前までは、暑い日が続いていましたが、季節は冬に向け、確実に移っています。

今回、新たに3人の学長補佐が任命され、新体制がスタートしました。時あたかも、国立大学の独立行政法人化問題があり、学校教育法、国立学校設置法が改正される

等、大学改革を進めるための大きな問題が山積しています。難題を抱えての船出ですが、最初に難題にぶつかったほうが、後は苦労しなくて済むかもしれません。

諺に「苦あれば楽あり」とあります。大学改革にも積極的にアタックして、明るい夢・未来を見たいものです。

大学も今、確実に変わりつつあります。 (吉田)



附属小学校
創立125周年



▲創立記念を祝って
演奏する附属小学校
弦楽合奏部



▲記念式典の様様



職員ボウリング大会



▲始球式での緊張の一瞬



▲ストライクが決まって大喜び

THE DORAKU 13
ライフル射撃

運動は苦手だけど、何かスポーツがしたい。そう思ってライフル射撃を始めたのは3年前。最初は重く感じた5kgの銃も今では軽々持ち上げ、気付けば休日のほとんどを射撃場で過ごすようになっていました。練習は、大変で嫌になる時もありますが、試合の後には、またすぐ練習をしたくなるから不思議です。

射撃は運動量が少なく、メンタル面を重視する“静”のスポーツと言われます。いかに自分をコントロールするか、そこが射撃の面白いところでもあり、難しいところでもあります。また、点数を競うスポーツなので、男女や年齢に関係なく楽しめるのも特色です。

これからは私は、射撃と付き合っていきたいと思います。
世古 真知子(文学部4年)

“熊本秋季国体”
成年チームライフル女子立射20発
日本タイ記録で初優勝!!

石川県代表として
「くまもと未来国体」
秋季大会に出場▶



慎重に引き金を引く世古さん

このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成11年11月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称 “ KUPIS ” (キューピーズ) 」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール (E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。